

筑波学院大にサッカー場整備

つくば市 つくばFC、東京家政学院と協定締結

つくば市と、筑波学院大学（つくば市吾妻）、つくばフットボールクラブ（つくばFC）、同市稲岡の三者は5日、「スポーツのまちつくば」に関する連携協定書を締結。同

大学で調印式を行った。大学の土地を利用して地域のスポーツクラブが施設を整備、活用する今回のケースは、日本で初めてという。協定には、同大学内

にサッカーフィールドを整備し、なでしこリーグやJリーグ参入を目指すつくばFCのトップチームの練習場や、大学の授業、市民の生涯スポーツの場として活用していくなど

の内容が盛り込まれている。三者が連携してスポーツ教室やイベントを開催するなどし、スポーツ振興、地域活性化をしていくことが目的。調印式では、同市の

市原健一市長が「スポーツのまちづくりを進めるため、連携して地域のために取り組むきっかけになれば」とあいさつ。

また、同大学を運営する東京家政学院の沖吉和祐理事長が「障がいを持つ方や高齢者など、すべてのみなさんにやさしい施設づくりをしていきたい」と話した。

「若者男女、スポーツを楽しむように進めている。フラインドサッカーなど障がい者スポーツも、連携しながら形にしていきたい」と話した。

サッカーフィールドは、現在同大学で多目的広場として利用している1万800平方メートルの土地に整備する。大



「スポーツのまちつくば」連携協定書調印式

筑波学院大内で行われた「スポーツのまちつくば」連携協定書の調印式。つくば市吾妻

は、現在同大学で多目的広場として利用している1万800平方メートルの土地に整備する。大

会の開催にも利用可能という。総工費は約1億円。7月に着工、12月に完成の予定で、供用開始は、来年1月を見込んでいる。8月にはサッカーフィールドの愛称も募集する予定だ。